

平成30年度上期 事業実施状況について

平成30年度茨城支部事業計画 K P I 達成状況

KPI設定項目	茨城支部KPI	実績		
		29年度実績		全国平均
1. 基盤的保険者機能関係				
社会保険診療報酬支払基金と合算したレセプト点検の査定率	対前年度以上	0.507% (全国 0.395%)	0.431% (基金0.264%:協会0.167%)	0.387% (H30.6月現在)
柔道整復施術療養費の申請に占める、施術箇所3部位以上、かつ月15日以上の施術の申請の割合	対前年度以下	0.97% (全国 1.49%)	0.90% (H30.8月現在)	1.30% (H30.6月現在)
日本年金機構回収分も含めた資格喪失後1か月以内の保険証回収率	95.2%以上	97.67% (全国 97.31%)	90.7% (H30.8月現在)	90.78% (H30.8月現在)
返納金債権(資格喪失後受診に係るものに限る。)の回収率	対前年度以上	55.2% (全国 53.9%)	24.58% (H30.9月現在)	30.9% (H30.8月現在)
医療給付費総額に占める資格喪失後受診に伴う返納金の割合	対前年度以下	0.057% (全国 0.068%)	0.091% (H30.6月現在)	0.077% (H30.6月現在)
サービススタンダードの達成状況	100%	100%	100% (H30.9月現在)	99.99% (H30.6月現在)
現金給付等の申請に係る郵送化率	87.0%以上	86.9%	89.9% (H30.9月現在)	88.3% (H30.6月現在)
高額療養費制度に占める限度額適用認定証の使用割合	83.0%以上	79% (全国 82%)	78.9% (H30.6月現在)	81% (H30.6月現在)
被扶養者資格の確認対象事業所からの確認書の提出率	87.0%以上	84.8%	75.3% (H30.8月現在)	?
現行のオンライン資格確認システムについて、USBを配布した医療機関における利用率	45.0%以上	36.7%	40% (H30.8月現在)	?
2. 戦略的保険者機能関係				
生活習慣病予防健診実施率	53.3%以上	53.3%	21.8% (H30.9月現在)	
事業者健診データ取得率	13.4%以上	8.5%	3.0% (H30.9月現在)	
被扶養者の特定健診受診率	31.5%以上	27.9%	10.8% (H30.9月現在)	
特定保健指導の実施率	14.7%以上	15.8%	7.12% (H30.9月現在)	
受診勧奨後3か月以内に医療機関を受診した者の割合	11.1%以上	10.2%	?	?
広報活動における加入者理解率の平均	対前年度以上	—	?	?
全被保険者数に占める健康保険委員が委嘱されている事業所の被保険者数の割合	47.0%以上	44.09% (全国 34.99%)	43.74% (H30.6月現在)	36.13% (H30.6月現在)
ジェネリック医薬品使用割合	74.7%以上	71.2% (全国)	75.2% (H30.6月診療分)	76.3% (H30.5月診療分)
他の被用者保険者との連携を含めた、地域医療構想調整会議への支部参加率	80.0%以上	66.7%	66.7%	—
「経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース」などを活用した効果的な意見発信	全支部で実施	—		

1. 基盤的保険者機能

● 効果的なレセプト点検の推進

KPI

社会保険診療報酬支払基金と合算したレセプト点検の査定率について対前年度以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
レセプト点検の査定率	0.488%	0.431%	0.488% (全国0.395%)

平成30年度の進捗状況

- ・加入者一人当たり査定効果額（8月末）：94.23円（前年同月：117.6円）
- ・支払基金に対する原審査強化の申し入れ

下期の主な取り組み内容

- ・点検員スキルアップ研修（外部講師研修、支払基金合同研修、他支部との情報共有）
- ・レセプト点検マスターメンテナンス強化（研修会や支払基金1次査定、他支部事例等からマスターメンテナンス実施）

1. 基盤的保険者機能

● 柔道整復施術療養費の照会業務の強化

KPI

柔道整復施術療養費の申請に占める、施術箇所3部位以上、かつ月15日以上 of 施術の申請の割合について対前年度以下とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
柔道整復施術療養費申請割合	0.97%	0.90%	0.97%

平成30年度の進捗状況

・患者照会率500%達成により、申請割合が減少（不正受給防止に向け、適正な申請か施術内容の照会文書を送付）

下期の主な取り組み内容

・柔道整復施術療養費の適正化に向け、引き続き患者照会率を高める

1. 基盤的保険者機能

- 返納金債権の発生防止のための保険証の回収強化、債権回収業務の推進

KPI

日本年金機構回収分も含めた資格喪失後1か月以内の保険証回収率を95.2%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
保険証回収率	95.2%	90.7%	97.67% (全国97.31%)

平成30年度の進捗状況

- ・返納催告（資格喪失処理の2週間後および再催告）を確実に実施
- ・過去に喪失後受診による返納金が発生した事業所に対し、喪失後は保険証が使用できない旨のチラシ発送（H30年9月）

下期の主な取り組み内容

- ・保険証回収（返却）啓発ポスターを作成のうえ、医療機関に掲示
- ・大規模事業所あてに喪失後は保険証が使用できない旨のチラシを送付予定（H31年3月）

1. 基盤的保険者機能

- 返納金債権の発生防止のための保険証の回収強化、債権回収業務の推進

KPI

- ①返納金債権（資格喪失後受診にかかるものに限る。）の回収率を対前年度以上とする
- ②医療給付費総額に占める資格喪失後受診に伴う返納金の割合を対前年度以下とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
①返納金回収率	55.2%	24.58%	55.2% (全国53.9%)
②返納金割合	前年度を下回ること	0.091%	0.057% (全国0.069%)

平成30年度の進捗状況

- ・保険者間調整の積極的なご案内と受付：145件・18,772,093円（8月末）
- ・医療機関に対するレセプト返戻承認のための交渉：122件・7,823,404円（8月末）

下期の主な取り組み内容

債権回収計画に基づく催告の着実な実施

1. 基盤的保険者機能

● サービス水準の向上

KPI

- ① サービススタンダードの達成状況を100%とする
- ② 現金給付等の申請に係る郵送化率を87.0%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
① サービススタンダード達成状況	100%	100%	100%
② 郵送化率	87.0%	89.9%	86.9%

平成30年度の進捗状況

- ・申請用紙に、郵送による申請をお願いするスタンプを押印のうえ、配布。

下期の主な取り組み内容

- ・下館年金事務所内サテライト窓口を閉鎖（31年1月末）

1. 基盤的保険者機能

● 限度額適用認定証の利用促進

KPI

高額療養費制度に占める限度額適用認定証の使用割合を83.0%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
限度額適用認定証使用割合	83.0%	78.9%	79.0% (全国平均82%)

平成30年度の進捗状況

- ・医療機関窓口リーフレット一体型の限度額適用認定申請書を設置

下期の主な取り組み内容

- ・医科の全医療機関に限度額適用認定申請書の設置依頼予定

1. 基盤的保険者機能

● 被扶養者資格の再確認の徹底

KPI

被扶養者資格の確認対象事業所からの「確認書」の提出率を87.0%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
被扶養者状況確認書提出率	87.0%	75.36%	84.84%

平成30年度の進捗状況

・所在不明事業所に対してインターネット等を利用し、所在地調査を行い、扶養調書を送付。

下期の主な取り組み内容

・確認書未提出事業所に対して督促文書送付

1. 基盤的保険者機能

● オンライン資格確認の導入に向けた対応

KPI

現行オンライン資格確認システムについて、USBを配布した医療機関における利用率を45.0%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
オンライン資格確認システム利用率	45.0%	40%	36.7%

平成30年度の進捗状況

- ・USB配布 5 機関のうち、直近の利用が確認できない 3 医療機関に対して意向確認を実施
(1医療機関は継続利用、2 医療機関は利用中止のためUSB回収予定)

下期の主な取り組み内容

- ・USB継続利用の 3 医療機関に対し、定期的に利用状況を確認し、利用率の向上を図る。

2. 戦略的保険者機能

- データ分析に基づいた第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施
 - i) 特定健康診査受診率・事業者健診データ取得率の向上

KPI

生活習慣病予防健診実施率を53.3%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
生活習慣病予防健診実施率	53.3%	21.8%	53.3% (全国49.6%)
	(実施見込者数：1370,946人)	(実施者数：59,879人)	(実施者数：140,946人)

平成30年度の進捗状況

- ・マンガパンフレットによる健診案内（茨城県・茨城労働局と連携により作成し、全事業所へ配布）
- ・新規適用事業所への健診案内の発送（毎月約200社へ発送）

下期の主な取り組み内容

- ・職員の訪問による健診受診勧奨・データ取得勧奨を実施（規模の大きな事業所を中心に約200件を訪問）

2. 戦略的保険者機能

- データ分析に基づいた第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施
 - i) 特定健康診査受診率・事業者健診データ取得率の向上

KPI

事業者健診データ取得率を13.4%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
事業者健診データ取得率	13.4%	3.0%	8.5% (全国6.4%)
	(取得見込者数：34,600人)	(取得者数：8,216人)	(取得者数：22,935人)

平成30年度の進捗状況

- ・外部委託による事業者健診データ取得にかかる電話勧奨
- ・医療機関への健診結果データ提出の協力依頼（96機関へ依頼文書送付）

下期の主な取り組み内容

- ・前年度健診結果データ提出事業所への協力依頼
- ・事業者健診結果データ作成契約健診機関の拡大

2. 戦略的保険者機能

- データ分析に基づいた第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施
 - i) 特定健康診査受診率・事業者健診データ取得率の向上

KPI

被扶養者の特定健診受診率を31.5%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
特定健診受診率	31.5%	10.8%	% (全国%)
	(実施見込者数：人)	(実施者数：8,223人)	(実施者数：人)

平成30年度の進捗状況

- ・受診券発送時の集団健診日程表同封（全市町村と集団健診実施機関との連携による日程表作成）
- ・新規加入の被扶養者への受診券直送（新規加入の被扶養者へ毎月受診券を発送）
- ・未受診者健診の実施（特定健診未受診者へ全市町村毎に開催する集団健診の案内を送付）

下期の主な取り組み内容

- ・39歳の被扶養者に対する特定健診案内（次年度より開始となる特定健診の受診勧奨案内）

2. 戦略的保険者機能

- データ分析に基づいた第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施
 - ii) 特定保健指導の実施率の向上及び平成30年度からの制度見直しへの対応

KPI

特定保健指導の実施率を14.7%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
特定保健指導実施率	14.7%	7.12%	-

平成30年度の進捗状況

- ・保健指導専門機関の活用により保健指導実施率向上。（初回面談者数・評価者数とも大きく増加）
- ・「健診当日に初回面談の分割実施」ができるよう健診実施機関へ協力依頼
（集団健診を実施する健診3機関中、2機関（40市町村）に初回面談分割実施を委託）

下期の主な取り組み内容

- ・保健指導対象者の改善率が全国ワーストとなっており、早急に原因の調査・分析を行い、改善を図る。

2. 戦略的保険者機能

- データ分析に基づいた第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）の着実な実施
 - iii) 重症化予防対策の推進

KPI

受診勧奨後3か月以内に医療機関を受診した者の割合を11.1%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
未治療者への受診勧奨	11.1%	-	-

平成30年度の進捗状況

- ・未治療者に対する二次受診勧奨実施
（本部による一次勧奨後の重症化域者に対して、県医師会との連名チラシによる受診勧奨：送付）

下期の主な取り組み内容

- ・慢性腎臓病の予防に向け、郡市医師会との連携による茨城県糖尿病性腎症予防プログラムを推進。

2. 戦略的保険者機能

- 広報活動や健康保険委員を通じた加入者等の理解促進

KPI

広報活動における加入者理解率の平均について対前年度以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
加入者理解率	30.1%	-	30.1% (全国)

平成30年度の進捗状況

- ・茨城支部の広報戦略策定
(医療費適正化・健康づくりに向けた取り組み等について、加入者の行動変容を促すことを目的として戦略を策定)

下期の主な取り組み内容

- ・広報委員会を発足し、加入者目線での広報を展開
(効果的に広報媒体を活用し、協会認知度向上と事業周知を図る)

2. 戦略的保険者機能

- 広報活動や健康保険委員を通じた加入者等の理解促進

KPI

全被保険者数に占める健康保険委員が委嘱されている事業所の被保険者数の割合を47.0%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
被保険者カバー率	47.0%	43.74%	44.09% (全国平均34.99%)

平成30年度の進捗状況

- ・算定基礎講習会や健康づくりセミナー等のイベントにおける健康保険委員勧奨チラシ配布
- ・健康づくり推進事業所に対する健康保険委員の登録徹底
- ・新規適用事業所に対し、健康保険委員とメルマガ勧奨文書送付（毎月約200社へ発送）

下期の主な取り組み内容

- ・健康保険委員委嘱拡大キャンペーンによる登録勧奨（勧奨文書発送および全職員による勧奨電話）
- ・健康づくり推進事業所の認定時に健康保険委員登録勧奨
- ・事業所訪問時の健康保険委員登録勧奨

2. 戦略的保険者機能

● ジェネリック医薬品の使用促進

KPI

協会けんぽのジェネリック医薬品使用割合を74.7%以上とする

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
ジェネリック医薬品使用割合 (新指標数量ベース)	74.7%	75.2% (平成30年6月時点・全国35位)	71.2% (全国34位)

平成30年度の進捗状況

- ①茨城県医師会と調整のうえ、県内医療機関へのジェネリック医薬品使用状況に関する情報提供およびアンケートを実施
- ②健康保険委員や健康づくり推進事業所への広報強化
(ジェネリック医薬品Q & Aやジェネリックシール、ジェネリック医薬品の一般名処方に関するチラシ同封など)

下期の主な取り組み内容

- ・茨城県後発医薬品の使用促進検討会議に参画し、取り組み事例、使用割合分析等について意見発信
- ・地域毎や薬効毎の使用割合を分析し、県・関係団体等へ意見発信。ジェネリックカルテの活用
- ・インセンティブ制度の周知と併せてジェネリック医薬品の普及啓発広報を実施
- ・医療機関・薬局へのジェネリック医薬品使用状況の情報提供および大規模医療機関訪問による使用促進の実施
- ・ジェネリック医薬品使用促進啓発ポスターの作成

2. 戦略的保険者機能

● 医療データの分析に基づく地域の医療提供体制への働きかけ

KPI

- ①他の被用者保険者との連携を含めた、地域医療構想調整会議への支部参加率を80.0%以上とする
- ②「経済・財政と暮らしの指標「見える化」データベース」などを活用した効果的な意見発信を全支部で実施する

指標	平成30年度目標	平成30年度上期実績	平成29年度実績
地域医療構想調整会議支部参加率	80.0%	66.7%	66.7%

平成30年度の進捗状況

- ①保険者協議会や茨城県医療政策課と調整し、協会けんぽの地域医療構想会議参入に関する意見を発信。
(委員の任期は2年で当面は調整会議への参加は困難)
- ②地域医療構想に向けてデータ分析を行い、受療者の流出入動向調査資料を作成。
(水戸保健所、日立保健所へ情報提供)

下期の主な取り組み内容

- ①被用者保険参加率の上昇に向け、保険者協議会や茨城県医療政策課等への働きかけを継続。
- ②保険者協議会、地域医療構想調整会議、地域・職域連携推進協議会へ積極的に参画し、意見発信。

健康づくりに関する各種イベントへの参画

◆茨城支部主催

- 平成30年9月1日 健康づくりセミナーの開催（筑波銀行本部ビル）

◆茨城県関係

- 平成30年9月8日 健康づくりキャンペーン（イオンモール水戸内原）
- 平成30年10月4日 茨城県産業安全衛生大会（茨城県民文化センター大ホール）
- 平成30年10月9日 県立健康プラザウォーキング大会（常総市）

◆茨城県医師会関係

- 平成30年9月29日 健康フォーラムへのブース出展（血管年齢測定）

健康づくりセミナーの開催

◆健康づくりセミナー in つくば

日時：平成30年9月1日（土曜日）開催

場所：筑波銀行本部ビル 10階大ホール

参加人数：248名（募集定員300名、申込者数335名）

開催内容：

- 講演①「小規模事業場におけるメンタルヘルスの課題」
茨城産業保健総合支援センター産業保健相談員 村井 正 氏
- 講演②「ヘルシートーク」・「健康落語」
落語家・医学博士 立川 らく朝 氏
- 事業説明「協会けんぽ茨城支部について」
茨城支部職員（企画総務グループスタッフ）
- 特別企画「骨密度測定」「健康相談」
茨城県総合健診協会・協会けんぽ保健指導者

※参加申込者が予想以上に多く、定員を上回った後に約50件以上の申し込みをお断りする等、大反響であった。ラジオ放送局から取材申し込みがあり、8月27日生放送でセミナーの趣旨と協会けんぽの事業についてアピールする機会を得るなど、マスコミからも高い関心を集めた。今後も県民に向けて幅広く協会けんぽ事業をアピールし、協会けんぽの認知度向上を図っていく。